

## 安全な農林水産物安定供給のための レギュラトリーサイエンス研究

【97（108）百万円】

### 対策のポイント

安全な農林水産物を安定的に供給し、食の安全及び消費者の信頼を確保するため、食品安全、動植物防疫等の行政施策を決定するために必要な短期の研究を機動的に実施します。

### <背景／課題>

- ・「農林水産業・地域の活力創造プラン」では「強い農林水産業」の実現に向けて国内外の需要の取込みを推進することとしており、食の安全と消費者の信頼確保は、欠くことのできない前提となるものです。
- ・食の安全及び消費者の信頼を向上させるためには、食品中に含まれる有害化学物質・有害微生物、動物の伝染性疾病や植物の病害虫に関するリスク管理を、科学的知見に基づいて効果的・効率的に実施し、安全な農林水産物を安定的に供給していくことが重要です。

### 政策目標

本研究で得られた科学的知見を食品安全・動植物防疫等の行政施策・措置に反映することにより、安全な国産農林水産物の安定供給に貢献

### <主な内容>

食品安全、動物衛生、植物防疫等の分野において、適切なリスク管理措置等を講じるため、法令・基準・規則等の行政施策・措置の決定に必要な科学的知見を得るための研究（レギュラトリーサイエンス※に属する研究）を短期的・機動的に実施します。

※ レギュラトリーサイエンス：科学的知見と、規制などの行政施策・措置との間を橋渡しする科学

（レギュラトリーサイエンスに属する研究の例）

- ・食品中の危害要因の分析法やリスク低減技術
- ・動物疾病や植物病害虫の検査法やまん延防止技術の開発 等

研究費：1課題当たり3,000万円以内／年

研究実施期間：原則3年以内

（委託費  
委託先：民間団体等）

お問い合わせ先：

技術会議事務局研究開発官（基礎・基盤、環境）室

（03-3502-0536）

消費・安全局食品安全政策課食品安全技術室

（03-3502-5722）

# 安全な農林水産物安定供給のための レギュラトリーサイエンス研究

## 背景・課題

- 安全な農林水産物を安定的に供給することは国の責務。
- 食品安全、動物衛生、植物防疫等に関する重大な問題が発生した場合、国民の健康や社会に大きな影響。  
→ 未来投資戦略2017では「2019年に農林水産物・食品の輸出額1兆円(現状(2016年)約7502億円)を達成する」、「2018年までに、FTA比率70%(2016年度末時点:40.0%)を目指す」としており、ヒト・モノの流れが拡大することでリスク増大
- 問題の発生を未然に防止又は影響を最小限に抑えるためには、規制等の施策・措置を科学的根拠に基づいて的確に講じることが重要であり、食料・農業・農村基本計画においてもその充実・強化が求められている。

## 事業内容

食品安全、動物衛生、植物防疫等の分野において、適切なリスク管理等を講じるため、法令・基準・規則等の措置の決定に必要な科学的根拠を得るための研究を機動的に実施。

### 研究課題例

#### 安全な二枚貝類の供給を確保するための研究

##### 食品安全上の問題点

毒化した二枚貝類が食中毒の原因となるため、食品衛生法で規制値が設定されていることから、規制値以下の二枚貝類を出荷するため、生産現場等で活用できる分析法を導入する必要。

##### 行政施策・措置

各種分析方法をマニュアル化し、都道府県による指導等に活用。

行政施策・措置に  
必要な科学的知見



反映

##### 研究開発

より高精度な機器分析法及び生産現場等で導入可能な簡易分析法を開発。

#### アルボウイルス感染症の発生予察体制を構築するための研究

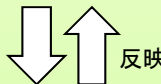
##### 家畜衛生上の問題点

アルボウイルスを媒介する節足動物の生息域等の変化により、本感染症の発生状況が変化しているため、これらに対応した的確な発生予察調査手法等を構築する必要。

##### 行政施策・措置

アルボウイルス感染症の発生予察調査に関するガイドラインの策定に供する。

行政施策・措置に  
必要な科学的知見



反映

##### 研究開発

アルボウイルスの侵入を早期に察知し、調査結果を速やかに生産現場に還元し、活用できる体制を確立。

#### クロバネキノコバエ科の一種の根絶を実現するための研究

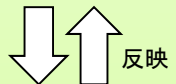
##### 植物防疫上の問題点

平成26年より、ねぎやにんじんの産地でクロバネキノコバエ科の一種による甚大な被害が発生。本種のまん延防止、根絶を図るため、防除体系の確立が必要。

##### 行政施策・措置

「重要病害虫発生時対応基本指針」に基づき実施される防除指導の内容に反映。

行政施策・措置に  
必要な科学的知見



反映

##### 研究開発

速やかに本種の発生・分布状況を把握するモニタリング調査手法、生産地域の実態に応じた総合的防除体系を確立。

研究成果を食品安全・動植物防疫等の施策・措置に反映することにより、安全な国産農林水産物の安定供給に貢献